

教科	商業	科目	簿記	単位数	3
学年	1年	類型	商業科		
教科書(出版社)	高校簿記 新訂版(実教出版)				
副教材(出版社)	完全段階式 標準検定簿記問題集(東京法令出版)				
授業の概要	企業において日常発生する取引を仕訳し、勘定記入を経て、決算に至る簿記の基本的な仕組みについて理解する。また、帳簿や財務諸表を通して、ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を身に付ける。				
授業の目標	1 企業における取引の記録・計算・整理に関する知識や技術を習得する。 2 簿記の基本的な仕組みについて理解する。 3 ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力や態度を身に付ける。				
年間学習計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1学期	第Ⅰ編 簿記の基礎 第Ⅱ編 取引の記帳と決算Ⅰ 第Ⅲ編 取引の記帳と決算Ⅱ 第Ⅳ編 帳簿と伝票	<ul style="list-style-type: none"> 簿記の意味、目的、種類を学習する。 3分法による記帳法を学習する。 売掛金元帳、買掛金元帳の記帳法を学習する。 簿記上の現金、現金過不足、小口現金、当座預金、当座借越等の記帳法を学習する。 3伝票制の起票、集計、転記の方法を学習する。 決算整理の意味及び必要性を理解する。 		
	2学期	第Ⅴ編 取引の記帳と決算Ⅲ 第Ⅵ編 本支店の会計 第Ⅶ編 複合仕訳帳制 発展編 株式会社の記帳	<ul style="list-style-type: none"> 売上原価の算定、貸し倒れの見積もり、減価償却、有価証券の評価について、その処理方法を学習する。 割賦販売、委託販売、未着商品販売の記帳法を学習する。 支店会計の意味を理解させ、本支店間および支店相互間の取引の記帳法を理解する。 複合仕訳帳の意味と合理化の方法を理解する。 株式会社と個人企業の記帳方法の違いについて理解する。 		
3学期					
観点別評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
	簿記について関心を持ち、適正な会計処理を行うことを目指し、主体的に取り組もうとするとともに、会計処理を行う実践的な態度を身に付けている。	適正な会計処理を行うことを目指し、基本的・基本的な知識と技術をもとに、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	簿記に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、適正な会計処理を行うことを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	簿記に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、その基本的な仕組みについて理解している。	
備考	「財務会計Ⅰ」とのまとめ取りにより、4月から11月まで実施する。 4つの観点に基づき、学期ごとに定期考査までの学習のまとめりにごに評価し、100点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				